

銅スクラップの輸入が増加

海外銅など、中国景気対策などが左右か

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

四月前半は、十七日のドーハ会議での生産凍結合意に対する不透明感も手伝い相場を圧迫したこと、米ファイナデルフィア地区連銀総

裁、追加利上げに踏み切る前に米経済が堅調でインフレ一%に向かっている証拠が必要、景気次第で年三回の利上げは可能と発言、などのマイナス材料もあったが、原油がロシアとサウジが産油量据え置きで意見が一致したとの報に反応し急伸したこと、昨年十一月三十日以来の高値の四二ドルまで上昇した事、三月の銅および銅製品の輸入量は五七万トンで前年比三九%増と単月輸入量としては過去最高。などを受けてLME銅相場はUP、四月十五日時点で四、八八〇・五ドル(セツル)と月初価格より二五ドルUPの前半締めとなった。

後半は、クワエートの石油労働者によるストライキが三日目に突入。供給面で影響が出ていること、ドル安背景からUPなどのプラス材料もあったが、十七日のドーハ合合が不調に終わったことを受け夜間取引開始直後は八日以来の水準まで急落した事、ECBドラギ総裁、ユーロ圏は継続的な成長が今後も続き、金融状況は幅広く改善と認識。金融政策は長期にわたり緩和的と発言との発言を受けてユーロ安・ドル高などのマイナス材料を嫌気しLME銅相場はDOWN、五月十三日現在、後半スタート価格から五〇ドルDOWNの四、七四八ドル。銅建値五九万円となった。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一三・五二→一〇九・三六(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・二%増の八八万九、五〇一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比七・二%増の二二万二、七二二台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・四%増の七万五、七四四戸であった。

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

気銅が三・二%減の五万五、二二八t、スクラップが〇・〇%増の二万四、九一八t。

輸入

輸入は電気銅が前年比三八・六%減の二、一四九t、スクラップ三九・二%増の九、七六〇t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一・六%減の六万八、六一〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二・五%減の六万〇、九〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

三月の四輪車生産台数は八八万九、五〇一台で、前年同月の八七万八、五七七台に比べて一万〇、九二四台・一・二%の増加となり、四カ月ぶりに前年同月を上回った。

三月の国内需要は六三万五、九〇一台で、前年同月比八・六%の減少であった。うち、乗用車五三万二、四六八台で前年同月比九・三%の減少、トラック一〇万〇、七五四台で同五・〇%の減少、バス二、六七九台で同五・一%の増加。輸出は前年同月比一・八%の増加。(実績)

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二万二、七三三台で前年比七・二%増と、三カ月ぶりプラス。うち、乗用車八・四%増、貨物〇・四%減、バス一・三・二%増。

【住宅着工数】

平成二十八年三月の住宅着工戸数は七万五、七四四戸で、前年同月比で八・四%増となった。また、季節調整済年率換算値では九・三万戸(前月比二・〇%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。また、季節調整済値については前月比で持家、分譲住宅が増、貸家が減となった。
・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では三カ月連続での増加となった。
・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一・六%減の六万八、六一〇tと一三カ月連続マイナス。このうち、内需は五万七、七九四tで〇・五%増と二カ月連続プラス、輸出は一萬〇、八一六tで一・八%減と一二月連続マイナス。品種別では、銅条は二万〇、五六二tで四・九%減と一二月連続マイナス。黄銅棒は一萬六、九二六tで一〇・八%増と五カ月連続プラス、底入れの兆し？

【電線】

前年比二・五%減の六万〇、九〇〇t。うち、国内一・六%減、輸出は二一・三%減。出荷部門別では、通信五二・八%減、電力二〇・二%増、電気機械二・九%減、自動車四・一%増、建設電販二・三%減、その他内需二・八%増。

【輸出】電気銅輸出が前年比三・二%減の五万五、二一八t。銅スクラップは〇・〇%増の二万四、九一八t。

【輸入】電気銅が三八・六%減の二、一四九t。スクラップは三九・二%増の九、七六〇t。

【見通し】

・自動車は生産が一・二%増。三月の国内販売台数が前年比七・二%増。生産が四カ月連続ぶりプラス、販売が三カ月ぶりプラス。生産、販売共にプラス、販売に至っては大幅増！新年度入り後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では三カ月連続での増加となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は一三カ月連続マイナスの前年比一・六%減。需要の多い銅条が一二月連続マイナス。黄銅棒が五カ月連続プラス。輸出は前月に続き減少が続き一二月連続マイナス。黄銅棒が五カ月連続でプラスに転じ、一萬六千t台を回復、今後の回復が望まれる。

・電線は輸出が二一・三%減。内需は一・六%減。

・銅輸出は生産増加による国内玉の需要増加から地金、スクラップ共に減少。

・銅輸入は、生産減少による国内玉の需要減から地金は減少、スクラップは内需の

発生難から増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、GW休暇前に銅建値が六〇万円台にのっていたことや、休み中のリスク回避から売られ流通在庫はほとんどないのではないかと。また引き続きほとんどの分野で生産減の現象が続いており発生難の状況が続いている。自動車、住宅の販売が多少上向き需要増が予測され、需給は逼迫するのではないかと？

【価格・為替予想】

今月は、原油と中国の景気対策に左右される。

原油に関しては一月の増産凍結水準は原油の需要が多い夏には実質一〇〇万バレルの減産規模に値すること、国際エネルギー機関(IEA)が十二日公表した五月の月報で、需給の改善を背景に年後半には世界の原油在庫が「劇的に削減される」との見通しを示したこと、山火事があったカナダで生産が完全に回復するには時間がかかるとみられるほか、リビアやナイジェリアでの供給不安が出ている事から四五〇〜五〇〇ドルで推移するのではないかと？

中国の景気対策に関しては、中国国家発展改革委員会が四月に総額二一三億ドルの固定投資資産プロジェクトを承認したと発表した。今後も相次いで発表される可能性も高いのではないかと？

それらを踏まえた五月の銅価格は、原油の需給が現状程度で引き締まり四五〇〜五〇〇ドルで推移し、中国の景気対策の効果が出てきた場合、四月高値の一段高五、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合四、八〇〇〜五、〇〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、三月もう一段安値の四、七〇〇〜五、〇〇〇ドル。

為替は、新規材料難の中、米経済悪化を防ぐための米利上げ観測の後退や、G二〇の流れを受けての介入がしにくい現状や追加的な金融緩和策が難しいことから、円高が続くのではないかと。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、米利上げ観測が後退した場合一〇五円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などを行い、米利上げ観測が前進した場合、一一〇円を予測。

銅建値に関しては五四〇〜五九〇円程度と予測している。